

謝辞

この度、博士論文を執筆するにあたり、本当に多くの方に支えていただきました。今改めて振り返りながら思えば、ここに至るまで、常に暖かくそして厳しいお言葉を頂戴いたしました。一人の力では到底、ここまで来ることはできませんでした。多くの方に感謝申し上げたいと思います。

指導教官としてご指導いただいた角井博先生には多くのご心配をおかけしました。不出来な学生であり、先生のご心痛如何ばかりであったかと申し訳なく思っております。筑波大学にて先生にお会いすることがなければ、私自身は、博士課程芸術学研究科に進学し、一步を踏み出すということは到底できませんでした。心より感謝申し上げます。

相馬隆先生には、ゼミの中で多くの示唆に富んだ御指摘をいただきました。先生が指し示される研究の広がりとは可能性は、常に私の目を開くものでした。分野を越えて学問に共通するもの、それを確かめながら、視点の深さと視野の広さを楽しむこと。道なき道を一人歩いてゆく勇気を与えていただきました。

データベースに関し模索していた時、鈴木雅和先生にお会いしました。データベースという技術についての具体的な示唆をいただき、指導の中で、様式論を論文のスタイルとして定着させるための方法を掴むことができました。

真保亨先生には、お忙しい中、論文審査にあたっていただき、暖かいお言葉をかけていただきました。

博士過程進学に至るまでも多くの先生方にお世話になりました。

岡本政弘先生には大学入学以来、常に暖かく見守っていただき、制作の中から、書に対する見方を問い直す機会を与えていただきました。

また、大学三年生の時、父の病氣療養で学生を続けることが困難な状況の時、村上列先生には、人生の転機となるような大きな励ましをいただきました。あの時の先生の厳しいお言葉がなければ、書続けるという今の私はありません。自分自身にとって書とは如何なるものなのか、辛い問い掛けを諦めず続けるうち、人生が少しずつ開けていったと感じております。

森岡隆先生、中村伸夫先生にも、励ましのお言葉をかけていただきました。

坂口瑛先生には、情報処理分野の方向を案内していただき、データベースが形にならない、不安な時にお声をかけていただきました。

(株)NUKの久保泰さんには、データベースのプログラムに協力していただきました。試行錯誤の中で、多くの問題が持ち上がりましたが、このことにより、真に鍛えられたと感じております。

筑波大学附属図書館の石川さん、熊谷さんには、『法華義疏』の複製貸出の手続きにあたっていただきました。本研究の研究方向を左右する資料の入手がなければ、論文として形を為さなかつたでしょう。御協力に感謝しています。

そして、これまで支えてくれた家族に感謝します。病氣療養の父の傍らで長い間見守ってくれた母には、感謝の言葉が見つかりません。論文の完成を、自分のことのように喜んでくれた父母の声に触れた時、心から安堵しました。

最後になりましたが、筑波山本證寺 第十六代住職 松井佳道御尊師、第十七代住職 木内道和御尊師には、深いご指南をいただきました。降りかかる様々な局面に対し、これを乗り越えていくことができたのも、師の御指導があったからに他なりません。ありがとうございました。

時を重ね、これからもまた、粛々と続けていきたいと思っております。
それが、支えていただいた方々への感謝につながると感じつつ、筆を擱
きます。

飯島 広子